



希望の鐘 The Bell of Hope

The Y's Men's Club of Kawagoe

〒350-0046 川越市菅原町 7-16

tel:049-226-2491 fax:049-226-2304

c/o Kawagoe YMCA, 7-16 Sugawara-cho, Kawagoe, Saitama 350-0046 Japan



川越ワイズメンズクラブ会報

No. 29-03

9月号

発行 2026年9月19日

Chartered 1998

川越クラブ会長: 利根川 太郎 主題「ワイズメンの原点に還って楽しもう。」

～楽しく交流・川越YMCAの支援・国際交流の充実～

副会長 松川 厚子

国際会長: ヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィク(ノルウェー)

会 計 吉田 公代

主題 “Waking the Sleeping Giant with Blue Music”

『ブルーミュージックで眠れる巨人を目覚めさせる』

スローガン “YMI-Empowering Life” 『YMI-人生を力づける』

書 記 吉野 勝三郎

アジア太平洋地域会長: ラチャン・マニカーン(タイ)

主題 “Awakening the Asia Pacific Area with Blue Music”

『アジア太平洋地域をブルーミュージックで目覚めさせる』

スローガン “Empowering Communities, Inspiring Generations”

『地域社会を力づけ、世代を鼓舞する』

東日本区理事: 山下 真(十勝クラブ)

主題 『挑戦なくして進化なし』

スローガン 『響け 挑戦のブルーミュージック』

9月の聖句

我々の主なる神を畏れ敬おう、
雨を与える方、時に応じて秋の雨、春の雨を与え
刈り入れのために、
定められた週の祭を守られる方を

(旧約聖書 エレミヤ書5章24節)

Let us now fear the LORD our God,
Who gives us rain, both the former and the later
in its season.
He reserves for us the appointed weeks of the
harvest.

(Jeremiah 5:24)

(8月22日例会出席率)

出席者9名 クラブメンバー出席率 90%

川越クラブ 8月例会議事報告

会長 利根川太郎

日時:2026年8月22日(土) 14:00~16:00

会場: 埼玉 YMCA 川越センター

川越クラブ 2026-2027 年度活動計画

(先月号のブリテン掲載漏れのため、今号に掲載)

・会長主題

ワイズメンの原点に還って楽しもう

～楽しく交流・川越YMCAの支援・国際交流の充実～

・今期の目標

- (1) 会員の交流機会を増やすとともに、他クラブとの交流を促進する。
- (2) 埼玉YMCA川越センターの諸活動を支援するための活動を継続し、会員の参加を推進する。
- (3) IBCクラブとの協働による活動を継続する。
- (4) ユースボランティア育成を支援する。

川越ワイズメンズクラブは、クローバークラスのプログラムを中心にクラブメンバーが参加することでYMCA川越センターの支援を開始しました。3月末のバス旅行は定着して、クローバークラスの子どもたちはもとより、YMCAの卒業生も参加してくれる人気企画となっています。このバス旅行を、さらに多くの皆さんと楽しめるように所沢クラブとの共催を検討していきます。これからも、子供達とクラブメンバーが係わる機会を少しずつ増やして、支援の輪を広げたいと思っています。

埼玉YMCA川越センターでは、ユースのボランティアグループが誕生しました。ユースアクション2026にもエントリーしたチームです。今年度はこのチームとの協働も模索していきたいと思っています。

また、ハイデラバードクラブとのIBC締結をきっかけに、東日本区主催による「インド体験・交流プログラム2026」が開催されました。川越クラブではハイデラバードクラブとのパイプを生かしてこのプログラムに協力して参ります。IBCクラブとは息の長いお付き合いができるように、双方に無理なく楽しめる交流・活動も検討していきます。

例会の持ち方については、昼食会や午後のお茶会を企画するなど、少し楽しむ要素を入れられると良いと考えています。引き続きクラブメンバーの希望を聞きながら具体化していきたいと思います。

8 月例会報告

川越クラブは8月22日(土)に、廣田光司(千葉クラブ) 関東東部部長をお迎えして、2026-2027 年度の行事検討例会を持ちました。

廣田部長は、47 年間YMCAに係わってこられて、1990 年から東京ワイズメンズクラブに入られたとのこと。部長職は初めてということですが、「地域奉仕活動とYMCA サービス事業でクラブを元気に」をテーマに、早速クラブ訪問を開始されて精力的に活動されています。CS・Yサ活動リストを作成したり、卓話者リストを作成したり今季の活動が開始された直後から、様々な施策を実現されています。

では、事務例会の報告をします。

1. 関東東部の行事について

- ・第一回評議会 2026 年 7 月 25 日(土)東京YMCA東陽町センター
- ・第二回評議会 2027 年 5 月 1 日(土) 東京YMCA東陽町センター
- ・関東東部 30 周年記念部大会
2027 年 2 月 6 日(土)飯田橋・日中友好会館内「フードサロン錦鯉」
- ・30 周年の記念品は、持ち運び用のクラブバナーを各クラブに、さらに個人には「エコバッグ」とする案を、川越クラブとして提案した。

2. 2026-2027 年度の行事活動案について

- ・9 月 26 日(土)卓話
- ・10 月 24 日(土)中川健太郎氏「インド体験交流プログラム参加報告」
- ・11 月 28 日(土)YMCAフェスティバルとの関連で未定日程調整あり
- ・12 月 26 日(土)クリスマス会 日程は若干の調整あり
- ・2027 年 1 月 23 日(土)国際大会(マレーシア・ペナン)報告会
- ・2027 年 2 月 27 日(土)14:00~16:00 ウェスタ川越 3F 研修室 3
ヨガ体験 井上玲子さん ヨガインストラクター
- ・2027年 3 月 27 日(土)バス旅行
日程及び場所は今後詰める
- ・2027年 4 月 24 日(土)お散歩例会W4W
- ・2027 年 5 月 22 日(土)14:00~16:00 ウェスタ川越予定卓話 福島あしあとキリスト教会牧師 大島博幸氏 埼玉クラブ、所沢クラブ、川越クラブの 3 クラブ合同例会とする。

- ・2027 年 6 月 25 日(土)2026-2027 年度の振り返りと次年度計画

3. ハイデラバード訪問報告

- ・日本からの体験交流プログラム

交流生派遣に当たり、安全についてのオリエンテーション実施してほしい。インドでは日本と異なる危険があるので、勝手な行動はとても危険である。

・ハイデラバードクラブより、インドからの体験交流プログラムも実施したい旨申し出があった。このことについて受け入れる場合は、東日本区が主体となって受入を企画することを確認する。

・プログラム参加者が体験をきっかけとして、インドでインターン体験をすることに発展した。

4. ボビーさん、ジョイスさんさんご夫妻ご挨拶

ウガンダからJICA長期研修員として来日したボビーさんが、来月で帰国されるに当たり、来日していらした妻のジョイスさんとともに、帰国のご挨拶に見えました。

ボビーさんとは当クラブの山本さんが立教大学のご縁で知り合い、新井さんの仲介で日本の幼稚園とウガンダの幼稚園を繋ぐZoom交流をするなど、交流が深まっています。

ウガンダに帰られた後も、ウガンダのYMCAやワイズメンズクラブを訪ねて、繋がりを深めてくださるということです。

次回例会日程は、

- ・日時 2026 年 9 月 26 日(土)14:00~16:00
- ・場所 川越YMCA

熊本地震被災地支援

山本 剛史郎

今回は九州キリスト災害支援センターの希望により、熊本地震に被災地に支援物資を届けるため大澤克哉師(川越国際キリスト教会牧師)に同行し、そのために職場である川越キングス・ガーデンから派遣されました。

2026 年 7 月 28 日に熊本地震が起き、それから 2 週間も経っていない 8 月 10 日に行ったので、ほとんど現地での状況が分からず、どうなるのか不安もありましたし、何ができるのか分からなかったのですが、とりあえず行くことになりました。

8 月 10 日の早朝に自宅を出発し、東京駅から新幹線に乗って博多駅に行き、そこからレンタカーを借りて、支援物資を買い、車で熊本まで行きました。これは現地でのガソリンや物資を買い占めないように、熊本の人々に迷惑をかけないようにするためでした。予定どおり 13 時 09 分に博多駅に到着し、大澤克哉師と合流して、2 か所のホームセンターを回って飲料水、オムツ、土のう袋などの



大澤克哉師、中央:吉田文人師(植木教会牧師)

今回は JEA(日本福音同盟) 関係の教会を回り支援することもあったので、最初に日本ホーリネス教団熊本植木キリスト教会に行きました。今回の熊本地震では、教会堂に多少のひびが入ったものの、大きな被害はなかったとのことでしたが、同教会では地震後に生活用水として使用している地下水が濁り、その濁りが解消されるまでに 1 週間以上かかったとのことでした。また、子どもたちが余震を怖がり、揺れがあるとパニックに近い状態になってしまうこともあると伺いました。建物やインフラの復旧だけでなく、地震を経験した子どもたちへの心理的なケアも必要であることを感じました。



次に、熊本市中央区にある熊本県総合福祉センターへ向かい、そこで開催された、くまもと災害ボランティアネットワーク「火の国会議」に出席しました。会場では、日本国際飢餓対策機構(ハンガーゼロ)の高橋秀幸師、申玉澈氏とお会いし、一緒に会議に出席しました。また、日本 YMCA 同盟の小野実氏、東京 YMCA の村上祐介氏、熊本 YMCA の丸目陽子氏ともお会いしました。「火の国会議」は、多くのボランティア団体が情報を共有し、被災地における課題に話し合う場となっていました。翌日の天候、災害ボランティア拠点の状況確認、各団体からの活動報告、支援活動上のトラブルや課題の共有など、内容は多岐にわたり、約 1 時間 45 分にわたって会議が行われました。

初日の移動を通して感じたことは、福岡から熊本市中心部までの区間では、地震の影響を外見上ほとんど感じなかったことです。建物や道路にも大きな問題は見られず、少なくとも熊本市中心部では、日常生活が通常に近い形で営まれているように感じました。

2 日目の 8 月 11 日は、大澤師と合流し、車で日本アッセンブリー・オブ・ゴッド教団川尻キリスト教会、八代聖書教会に行きました。

今回の震源地である、氷川町、八代市に近づくにつれて次第に道路状況が悪くなっていきました。所々で路面に凹凸があり、それまでと同じ速度で走行すると大きな衝撃を受けるため、速度を落として走行する必要性がありました。また、青いビニールシートで屋根を覆った家屋が見られるようになり、南下するにつれてその数が増えていきました。さらに氷川町に入ると、完全に倒壊した家屋や、危険を示す赤い紙が貼られ、立ち入りが制限されている家屋も見られるようになりました。また、損傷した道路の補修工事が行われている箇所も目立ちました。



その後、児童養護施設ナザレ園へ向かいました。ナザレ園はカトリック系の施設ですが、八代市におけるキリスト教系ボランティア団体の活動拠点の一つとなっていました。今回、九州キリスト災害支援センターから依頼された支援物資についても、ナザレ園へ届けるよう指示を受けていましたため、そこで運んできた支援物資を降ろしました。前日には熊本 YMCA も訪問していたほか、NPO 法人 LOVE EAST や能登ヘルプの方々など、多くの支援団体が活動していました。近隣住民へのシャワーの開放、全国から集められた支援物資の配布、おにぎりやかき氷の提供など、さまざまな支援活動が行われていました。



その後、熊本市へ戻り、夕方からYMCAを支える団体である熊本ジェーンズワイズメンズクラブの例会に出席しました。今回の例会訪問、出席は行きの新幹線の中で、メールのやり取りで急遽、決まったものでした。お誘いくださった前田香代子さん、感謝です。YMCAスタッフやワイズメンから、熊本市の状況や熊本YMCAによる支援活動について話を伺うことができました。熊本市では今回の地震による影響は比較的少なく、市民生活はほぼ通常どおり続いているとのことでした。また、10年前の2016年熊本地震から学んだ経験が多くあり、今回の地震では、その経験を生かして比較的早い段階から対応することができたとの話もありました。



3日目の8月12日は、朝から熊本YMCAを訪問しました。残念ながら、伊藤眞太郎総主事は八代市へ出かけており、お会いすることができませんでした。そのため、木村成寿副総主事にご挨拶し、熊本YMCAの被災地支援活動のために個人的に献金をお渡ししました。



熊本YMCA

今回、まず感じたことは、熊本市中心部では地震による影響が比較的少なく、インフラをはじめ、市民生活の多くが通常に近い状態で機能しているということでした。そして、被害の大きかった氷川町や八代市にも熊本市からも2時間で行くことができ、幹線道路も通行可能であることから、支援活動を行いやすい環境が確保されていると感じま

した。また、様々なボランティア団体が活動し、支援物資が届くスピードも2016年の熊本地震の際と比較してかなり早くなっているとのことでした。今後は物的支援とは異なる課題がより重要になってくると考えます。現地の方々からも、地震や余震におびえる子どもたちへの心のケアや、中学生・高校生などへの学習面でのサポートが今後必要になってくるとの話がありました。

さらに、スマートフォンなどの情報機器を持っていない高齢者や、地域・教会・福祉機関など、どのコミュニティにも十分につながっていない方々に、必要な情報や支援をどのように届けるのかという課題も挙げられていました。災害支援は発災直後の食料や水、生活物資の提供だけで終わるものではないことを改めて感じました。復旧が進むにつれて、外からは被災の状況が見えにくくなっていきます。しかしその一方で、子どもたちの心のケア、高齢者や孤立した方々への情報提供、学習支援など、時間の経過とともに新たな支援ニーズが生まれてきます。今後は、被災地の状況の変化を継続的に見守りながら、現地の方々が本当に必要としている支援は何かを丁寧に把握し、息の長い支援につなげていくことが重要であると感じました。

十勝ワイズメンズクラブ創立50周年記念例会と北海道部部大会に参加して

利根川太郎

8月28日(金)から31日(月)に、十勝ワイズメンズクラブ創立50周年記念例会と北海道部部大会に参加して参りました。

28日はホテル日航帯広ノースランドにて前夜祭・IBCナイトが行われました。台北ダウントウクラブのメンバー13名をはじめ、DBCの京都ウエストクラブ12名、同じくDBCの東京江東クラブ7名、総勢67名が参加する賑やかな前夜祭となりました。

翌29日はグランピングリゾート「フェーリエンドルフ十勝」に場所を移して、50周年記念例会と北海道部部大会が開催されました。

会場となるフェーリエンドルフ十勝は、北海道十勝の広大な森にコテージが点在するリゾートです。各コテージは二階建てで、1階に広いリビングとキッチン、さらに全棟にバーベキューテラスが付いて、2階に3ベッドルームという豪華な作りで、ぜひ個人旅行でもう一度訪れたいと思う施設です。

総勢100名を超えるワイズメンが集い、十勝クラブの50周年を盛大にお祝いいたしました。

これだけたくさんの方々がお祝いに駆けつけたのは、十勝クラブの皆さんが、日頃からワイズメンの活動に大きな力を発揮され、東日本区はもとより、他クラブの活動にも積極的にお力添えを頂いている証左だと感じました。

記念例会では50年の歴史の重みと、十勝ジャガイモファンダムをはじめスケールの大きなチャレンジを続けるクラブの様子を拝見いたしました。

北海道部部大会では、一般社団法人青鳥舎代表理事小川洋輝氏から「ペリペの色 ぼくの色」の講演をいただき

ました。川越クラブにもご紹介いただいた絵本の出版や経緯に関するお話でとても興味深いものでした。

晩餐会は皆さんでバーベキューグリルを囲んで、お肉や海鮮を豪快に、美味しくいただき北海道の恵みを満喫しました。二次会はプレデシタルスイートコテージで夜が更けるまで楽しみました。

30日は然別湖へのエクスカッションが予定されていましたが、私達は恵子の叔母が岩見沢市に在住で100才を迎えましたので、そのお祝いに伺うためにここで失礼しました。

今回の北海道旅行は、秋雨前線の北側に当たり秋空の好天に恵まれてとても爽やかでした。多くの皆さんにお目にかかれて旧交を温め、とても充実したものとなりました。北海道部、十勝クラブの皆さんのホスピタリティに感謝申し上げます



幸福駅のホーム跡にて山下理事と

リレー随想

Bell of Hope Article: Y's Men's Club, YMCA Kawagoe

Arriving in Japan and facing the cultural differences: Loneliness due to language barrier

Have you ever been to a new place, about 11,000 km away from your home, where almost all the residents speak only the native

language? Well, that was my situation when I arrived in Japan in September 2024 to pursue a Master's Program. My search for an affordable accommodation led me to a traditional Japanese residential community – Tsurugashima City, Saitama Prefecture – in which over 95% of local people speak only Japanese.

As soon as I settled in my apartment, I felt a strange kind of loneliness – no chance; and no Japanese language knowledge to easily speak with anybody, not even the neighbors! I quickly realized that I must make friends and learn Japanese. I consulted the City Hall, and I was told that there is a Japanese Language session run by volunteers at a community center nearby my apartment. I joined the program. After about 4 sessions, the program organized a speech contest, open to the local community, where I met Mr. Goshiro Yamamoto, the Y's Men's Club Coordinator in Tsurugashima and an alumnus of Rikkyo

University who, later, introduced me to the Y's Men's Club in Kawagoe.

Settling in Japan and creating friendship: Y's Men's Club Kawagoe YMCA network

The short presentation I made during my first meeting with the Y's Men's Club members at the Kawagoe YMCA office opened doors for great friendship and partnership. I felt a big relief that all members speak English, are well travelled (one member had visited Uganda – my home country), and were eager to know more my country and my personal life, business initiatives, and experience in Japan. The more Y's Men's Club's meetings I attended, the more the relationship and the network developed!

Boby Ogwang at YMCA Kawagoe, 2025.05.24

Building a bridge between Japan and Uganda: Collaboration through the YMCA network

I'm happy that through the Y's Men's Club network, the



foundation for a strong bridge between Uganda and Japan has been built. For example, through the connection and support of Hisayo-san, we have created an exchange program

(still online) between Good Hope Nursery and Primary school (my small school in Apac, Uganda) and Kanbe Kindergarten in Saitama, Japan. I'm hopeful that, through

the on-going discussions with other members such as Keiko-san (about home host for exchange teachers from Good Hope and other education-related initiatives) and Yoshino-san (about acquiring and shipping Japanese tractors for mechanized farming services in Uganda), my connection with Japan

will, forever, remain strong.

Hisayo, Joyce & Boby, at Kanbe Kindergarten, 2026.07.10

Boby OGWANG,

Masters in International Business Management, Rikkyo University, Tokyo – Japan

(日本語訳-山本剛史郎メンの奉仕です)

日本に来て直面した文化の違い、言葉の壁による孤独

皆さんは、自分の故郷から約 11,000 キロも離れた、住民のほとんどが現地の言葉しか話さない場所に行ったことがありますか？2024 年 9 月、修士課程で学ぶために日本に来たとき、まさに私がそのような状況に置られました。手頃な住まいを探した結果、私は埼玉県鶴ヶ島市にある昔ながらの日本の住宅地域に住むことになりました。そこでは、地域住民の 95%以上が日本語しか話しません。

アパートでの生活を始めるとすぐに、私はこれまで経験したことのないような孤独を感じました。日本語がまったく分からなかったため、近所の人を含め、誰とも気軽に話すことができなかったのです。私はすぐに、「友人をつくり、日本語を学ばなければならない」と思いました。

そこで市役所に相談したところ、アパートの近くにある地域のコミュニティセンターで、ボランティアによる日本語教室が開かれていることを教えてもらいました。私はさっそくその教室に参加しました。4回ほど参加した頃、その日本語教室が地域の人々にも公開されたスピーチコンテストが開催されました。

そこで私は、鶴ヶ島でワイズメンズクラブの活動に携わり、また立教大学の卒業生でもある山本剛史郎さんとお会いしました。その後、山本さんが私を川越ワイズメンズクラブに紹介してくださいました。

日本での生活と友情の広がり

川越ワイズメンズクラブ・YMCA のネットワーク

川越 YMCA の事務所で初めてワイズメンズクラブのメンバーの皆さんとお会いした際、私は短いプレゼンテーションをしました。それがきっかけとなり、素晴らしい友情と協力関係への扉が開かれました。

メンバーの皆さんが英語を話すことができ、海外経験も豊富であることを知り、私はとても安心しました。中には、私の母国であるウガンダを訪れたことのある方もいました。また、皆さんは私の国についてだけでなく、私自身の生活やビジネスの取り組み、そして日本での経験についても強い関心を持ってくださいました。ワイズメンズクラブの例会に参加すればするほど、皆さんとの関係は深まり、私のネットワークも広がっていきました。

日本とウガンダの架け橋を築く

YMCA のネットワークを通じた協力

私は、ワイズメンズクラブのネットワークを通して、ウガンダと日本を結ぶ強い架け橋の土台が築かれたことを、とてもうれしく思っています。例えば、新井壽代さんとのつながりと支援によって、ウガンダのアパックにある私の小さな学校「Good Hope Nursery and Primary School」と、埼玉県にある「神戸幼稚園」との交流プログラムを始めることができました。現在はまだオンラインでの交流ですが、両者を結ぶ大切な取り組みとなっています。さらに、他のメンバーの皆さんともさまざまな話し合いが進んでいます。利根川恵子さんとは、Good Hope の先生たちが交流のために日本を訪れる際のホームステイ受け入れや、その他の教育に関する取り組みについて話し合っています。また、吉野さんとは、ウガンダで農業の機械化サービスを進めるため、日本のトラクターを入手してウガンダへ輸送することについて話し合っています。

こうした交流や協力を通して、私と日本とのつながりが、これからも末永く強いものであり続けることを願っています。

ボビー・オグワン

立教大学

国際ビジネスマネジメント修士課程

YMCA報告

河合今日子

【たんぽぽ&クローバー活動・9月の活動】

9月6日(日)、ぶどう狩りに行ってきました。子ども達は、それぞれ「これだ!」と思った巨峰を自分で選んでカット。「いくらかな?」と言いながら財布からお金を出し、お会計を済ませました。YMCA のバスの中では、クイズをしたり、歌を歌ったりしながら、雨の中でも仲間と楽しい時間を過ごすことができました。

今月は、子ども達が企画したカラオケやスペシャルボードゲーム、角川ミュージアムへのお出かけも予定しています。

食欲の秋、読書の秋……。子ども達には、季節を感じながら、様々な活動を楽しんでほしいと思います。



【今後の YMCA イベント】

2026 年 11 月 3 日(火・祝) チャリティーラン

2026 年 12 月 12 日(土) クリスマス礼拝

2027 年 2 月 23 日(火・祝) YMCA フェスティバル

編集後記w

毎号、川越クラブの多彩な活動を知り、本当にこのクラブのメンバーである幸いを感じています。

今号では、ウガンダからの留学生、Boby Ogwang さんが帰国に際して、一文を寄せてくれました。彼の日本での日々が、川越ワイズメンズクラブメンバーとの交わりを通して、より充実したものになったことを知り、大変嬉しくなります。帰国後も交流が続くことを期待します。

私事ですが、過日、札幌で学ぶ孫が 20 歳の誕生日を迎えたので、それを祝うために札幌に行ってきました。前から乗ってみたいと思っていた、東北新幹線で新函館北斗駅まで行き、そこから在来線の特急に乗り換えて札幌駅まで、7.5 時間の旅を大いに楽しみました。

私は学校を卒業して最初に就職した会社の本社が札幌でしたので、59 年前に初めて鉄道で青森まで行き、青函連絡船で函館に、再度鉄道を小樽経由で、入社式と新入社員研修のため、まだ寒い 3 月末の札幌駅に降り立ちました。それから既に半世紀以上の年月が過ぎました。今回は、孫の案内で彼の学ぶ大学のキャンパスを見学し、彼の運転する車で小樽や余市を観光し、彼の住む部屋に宿泊するという、特別な時間を過ごすことができました。

いよいよ、スポーツ・読書・食欲などなど、すべてに最適な時期となりました。夏の疲れを癒して、次の飛躍へと体力・知力・心力をリチャージしましょう。因みに、孫はセバクロというスポーツにはまっています。

26 日(土)の例会で皆さんと再会できるのを楽しみにしています。セブ島での大会の報告も楽しみです。

(KY)